

日本聖公会 管区事務所だより

日本聖公会管区事務所
162-0805 東京都新宿区矢来町 65
電話 03 (5228) 3171 FAX 03 (5228) 3175
発行者 総主事 司祭 相澤 牧人

祈る力

管区事務所総主事 司祭 ヨハネ 相澤牧人

まもなく3月11日を迎えます。東日本大震災から1年を経ようとしています。日本聖公会では、主教会が特祷（東日本大震災1周年記念特祷・後日各教会に送られます）を定め、それを用いて心をひとつにして祈ろうと呼びかけています。当日は主日であり、全国の教会・伝道所・礼拝堂での主日礼拝の中で、この祈りをささげ、犠牲者、被災者、またその方々を支える働きをなさっている方々のために思いをひとつにしていきたいものと思います。

被災教区からは、「風化させないで欲しい」と語り続けておられる声を聞きます。いっしょに歩こう!プロジェクトのPR用のDVDの中でも「忘れないでほしい」と呼びかけています。

先人は、過去を記憶できない者はその過去を再び繰り返す、と伝えてくれています。地震発生から一年を過ぎてもまだなお困難な状態のある方々が多数おられます。私たちはそれを生じさせた様々な原因について記憶をしていくこと、風化させない、忘れないとの思いを持ち続けていかなければならないでしょう。祈りはそれを防いでくれるものでもあると思います。

祈りは、人の思いが、私の思いが、そこに凝縮されているのでしょうか。その凝縮された思いが神に向かって投げかけられる（ささげられる）。そのことによって、その願いの実現へと、祈る者が持てる力をささげ、向かう。それ故に、祈りの連鎖は良い方向へと歩み出していくと思うのです。

「祈りは無力だと思えるかもしれませんが。しかし祈りは無力なものではありません。祈ることを忘れた心が無力なのです。祈るだけでは何も解決しないと思えるかもしれませんが。そうではなくて祈りを欠いた行動が何の解決ももたらせないのです。」と語るお坊さんの言葉を知りました。

顕現後第5主日の特祷は、「主よ、あなたに呼び求める民を慈しみ、その祈りをお受けください。どうか、行うべきことを悟る知恵と、それを忠実に成し遂げる恵みと力をお与えくださ

□会議・プログラム等予定

(2月25日以降および
前回報告以降追加分)

2月

- 15日(水) 広報主査会(中止)
- 27日(月) 「いっしょに歩こう!プロジェクト」財務担当者会
- 27日(月) 第2回聖公会平和協議会実行委員会
- 28日(火) 正義と平和・憲法プロジェクト
- 28日(火) 正義と平和委員会

3月

- 1日(水) 法憲法規委員会
 - 1日(水) ~2日(木) 正義と平和・沖縄プロジェクト(沖縄教区センター)
 - 2日(金) 宣教協議会実行委員会
 - 2日(金) 文書保管委員会
 - 5日(月) 礼拝委員会
 - 6日(火) 教役者給与検討デスク
 - 6日(火) 収益事業委員会
 - 8日(木) 財政主査会
 - 11日(日) ~12日(火) 各教区青年担当者会(牛込聖公会聖バルナバ教会)
 - 12日(火) 青年委員会
 - 13日(火) ~15日(木) 管区共通聖職試験
 - 15日(木) 58-12常議員会
 - 19日(月) 聖公会/ローマ・カトリック教会合同委員会
 - 19日(月) 聖公会・ルーテル教会協議会
 - 21日(水) 原発事故と放射能に関するワーキング・グループ(京都教区センター)
 - 22日(木) 主事会議
 - 23日(金) 教役者遺児教育基金・建築金融資金運営委員会
 - 28日(水) ~30日(金) 新任研修会[狭山]
 - 29日(木) 文書保管委員会
- ### 4月
- 5日(木) 会計監査
 - 11日(水) ウィリアムズ主教記念基金会計監査
 - 18日(水) 神学教理委員会

(次頁へ続く)

い。」と祈ります。神に祈りをささげて後はじっと待つ、というのではないのだということを知ります。

主の祈りを私たちは何回唱えてきたでしょうか。そしてこれから何回唱えるのでしょうか。その一回一回の祈りの度に、その内容を確認しているのではないのでしょうか。み名が聖とされること、み国が来ること、み心が行われることを求めます。日ごとの糧を、罪の赦しを、悪からの救いを願います。これらのことを繰り返し祈り求めるたびに、その実現に向かって歩みを続けている、また続けて行こうとしているのではないのでしょうか。

同じように、東日本大震災のための祈りをささげることを通して、その祈りの願いを行うための悟りと知恵を、また成し遂げる恵みと力を得ていきたいものです。

(前頁より)

18日(水) ナザレ修女会の修道生活を支える会

19日(木) 58-13 常議員会

20日(金) 宣教協議会実行委員会

24日(火) 主事会議

<関係諸団体会議等>

2月24日(金) NCC人事選考委員会

3月26日(月) ~ 27日(火) NCC第38

回総会(日本聖公会東京教

区聖アンデレ教会)

まだまだ困難の中にある方々がたくさんおられます。そのことを忘れず、祈る力を発揮して「いっしょに」歩いていく思いを強くしていきたいものです。

□主事会議

第58(定期) 総会期第20回 2月23日(木)

1. NCC第38回総会期派遣委員に関して
 - ①青年委員: 青年委員会に依頼
 - ②女性委員: 引き続き候補者を探す
 - ③在日外国人の人権委員: 正義と平和委員会に候補者推薦を依頼
 - ④東アジアの和解と平和委員: 正義と平和委員会に候補者推薦を依頼
 - ⑤平和・核問題委員: 正義と平和委員会に候補者推薦を依頼
2. ACCの東アジア地区代表の人選に関して(継続協議事項)
3. 自然災害等緊急時の救援体制に関して 神戸教区からの提案を受けて、自然災害等緊急時の初動体制等について各教区の情報交換の機会を設けることとした。先ず、東日本大震災、阪神・淡路大震災、新潟県中越地震時の関係者に集まっていたこととする。
4. 現状においての管区諸委員会の必要性に関して(継続協議事項)
5. 総会議案に関して

女性デスクおよび人権担当者作成案の下記議案について検討。議案提出者は法規上管区事務所となるため。(継続協議事項)

- ①「日本聖公会ハラスメント防止宣言」を採択することを承認する件
- ②ハラスメント防止に関する管区の体制を検討するチームを設置する件

次回以降の会議

2012年3月22日(木)、4月24日(火)

□各教区

東京

- ・司祭 鈴木裕二 教区事務所総主事代行(1月1日付)
- ・東日本大震災を覚えての祈り 3月11日(日) 聖アンデレ主教座聖堂 14時~黙想 14時半~礼拝 司式: 大畑喜道主教 お話: 植松 功さん
- ・第118(定期) 教区会 3月20日(火) 9時~17時 聖アンデレ主教座聖堂・聖アンデレホール

中部

- ・聖職按手式 3月24日(土) 10時半 中部教区新生礼拝堂 説教者: 挽地茂男師(聖公会神学院専任教員) 執事按手 志願者: 聖職候

補生ヨセフ石田雅嗣

大阪

- ・ 第107(臨時) 教区会 3月18日(日) 14時～15時半 大阪教区主教座聖堂(川口基督教会) 議題: 2011年度大阪教区一般会計決算承認の件、2011年度大阪教区一般会計余剰金/不足金処理案承認の件

□神学校

ウイリアムス神学館

- ・ 卒業礼拝(卒業証書授与式) 3月14日(水) 11時 京都教区主教座聖堂(聖アグネス教会) 説教: 谷昌二主教 卒業予定者: トマス吉田仁志(横浜)、ルシア並里輝枝(沖縄)、グロリア西平妙子(沖縄) 教区派遣科目聴講生修業予定者: ヤコブ義平雅夫(大阪)

聖公会神学院

- ・ 入学礼拝 4月3日(火) 14時 司式・説教: 植松誠主教 入学予定者: 阿部恵子(北海道)、成岡宏晃(大阪)

□関係諸団体

NCC・カトリック中央協議会共催 「東

日本大震災一周年にあたり追悼と再生を願う合同祈禱集会」 3月11日(日) 15時 カトリック麴町聖イグナチオ教会 主司式・説教: 日本カトリック司教協議会副会長 岡田

■立教学院奨学金についてのお知らせ

立教学院では、1998年度から「聖公会教役者の子及び聖公会神学院校長の推薦する大学院学生に対する立教学院奨学金規程」を制定しており、聖公会教役者の子で、立教学院の各学校の児童、生徒・学生に対して奨学金を交付しております。つきましては、次年度対象となる方がいましたら、申請されますようお願いいたします。

なお、申請の受付は小学校、池袋中高、新座中高は各校事務室、大学は財務部でおこなっており、締め切りは4月末日です。

東日本大震災一周年に関するお願い

まもなく3月11日を迎えます。東日本大震災から一年のときです。主教会では、この日を憶えて、主教会メッセージを出すこと、東日本大震災一周年記念特祷作成することを決めました。

当日は主日に当たりますので、各教会・伝道所・礼拝堂においては、その礼拝の中で、この一年を憶え、**主教会メッセージ**を朗読し、また印刷配布するなど、各教会においてのふさわしい方法で信徒の皆様にお伝えください。

また**記念特祷**は「第2特祷」として、当日の特祷に続いて用いていただき、心をひとつにしていたいただければと願います。

メッセージと特祷は後日各教会に送られます。また日本聖公会管区事務所ホームページにも掲載されます。

なお、首座主教は、信徒も犠牲者となった福島県新地町(磯山聖ヨハネ教会)での記念礼拝で司式・説教をされる予定です。

武夫大司教、共同司式: 日本キリスト協議会 議長 興石勇司祭(日本聖公会)

□訂正とお詫び

管区事務所だより(266号)の中部教区人事の箇所、松本正俊司祭の教名を間違えました。お詫びして訂正いたします。

4頁下から2行目 (正) 司祭 パウロ松本正俊
← (誤) ペテロ松本正俊



† 逝去者 靈魂のパラダイスにおける光明と平安を祈ります。

司祭 サムエル久保道則(大阪教区・退職)
2012年1月27日(金) 逝去(86歳)

《人 事》

横浜

テモテ姜 炯 俊 <信徒奉事者認可> (林間聖バルナバ教会)	2012年1月17日付 2012年1月1日付 クリストファー小平基	聖職候補生認可
司祭 イグナシオ入江 修	2012年3月31日付	横浜聖クリストファー教会管理牧師の任を解く。
司祭 ダビデ渡部明央	2012年3月31日付 2012年4月1日付	横浜聖クリストファー教会副牧師の任を解く。 横浜聖クリストファー教会牧師に任命する。
司祭 パウロ小林 進	2012年3月31日付	逗子聖ペテロ教会牧師の任を解き、願いにより退職を許可する。
カタリナ斎藤和恵	2012年3月31日付	聖マルコ幼稚園園長の任を解き定年により退職とする
司祭 エドワード宇津山武志	2012年3月31日付 2012年4月1日付	鎌倉聖ミカエル教会管理牧師の任を解く。 聖マルコ幼稚園園長に任命する。
司祭 サムエル小林祐二	2012年3月31日付 2012年4月1日付	館山聖アンデレ教会牧師及び安房大貫キリスト教会管理牧師及び聖アンデレ保育園園長の任を解く。 鎌倉聖ミカエル教会牧師及び逗子聖ペテロ教会管理牧師に任命する。
司祭 バルナバ吉川智之	2012年3月31日付 2012年4月1日付	鎌倉聖ミカエル教会副牧師の任を解く。 館山聖アンデレ教会牧師及び聖アンデレ保育園副園長及び安房大貫キリスト教会管理牧師に任命する。
司祭 マルコ高田 眞	2012年3月31日付	鴨川聖フランシス教会管理牧師及び南三原聖ルカ教会管理牧師の任を解く。
司祭 ミカエル大居雅治	2012年3月31日付 2012年4月1日付	鴨川聖フランシス教会副牧師及び南三原聖ルカ教会協働司祭の任を解く。 鴨川聖フランシス教会牧師及び南原聖ルカ教会管理牧師に任命する。
聖職候補生 トマス吉田仁志	2012年4月1日付	横浜山手聖公会牧師イグナシオ入江修のもとで勤務することを命じる。
司祭 イグナシオ入江 修	2012年4月1日付	逗子聖ペテロ教会協働司祭に任命する。
司祭 オーガスチン中山統永(退)	2012年3月31日付	ベタニヤ・ホームチャプレンの任を解く。
司祭 ダビデ渡部明央	2012年4月1日付	ベタニヤ・ホームチャプレンに任命する。
司祭 マタイ春日 隆(退)	2012年4月1日付	主教ローレンス三鍋裕の管理のもとで甲府聖オーガスチン教会において囑託司祭として勤務することを委嘱する。
司祭 清家智光(退)	2012年4月1日付	主教ローレンス三鍋裕の管理のもとで、長坂聖マリヤ教会において囑託司祭として勤務することを委嘱する。

東京		
太田信三	2012年1月18日付	聖職候補生認可
大阪		
司祭 ウィリアムス竹内信義	2012年3月31日付	定年により、退職とする。
司祭 ヨハネ木村幸夫	2012年3月31日付	定年により、退職とする。
司祭 テモテ内田 望	2012年4月1日付	川口基督教会牧師、大阪聖パウロ教会管理牧師の任を解き、堺聖テモテ教会牧師、聖ルシヤ教会管理牧師、要請に基づきプール学院チャプレン(大学勤務)に任命する。
司祭 ペテロ岩城 聰	2012年4月1日付	堺聖テモテ教会牧師、聖ルシヤ教会管理牧師、プール学院チャプレン(大学勤務)の任を解き、川口基督教会牧師、大阪聖パウロ教会管理牧師任命する。
司祭 ペテロ齊藤 壹	2012年4月1日付	大阪城南キリスト教会牧師、聖ガブリエル教会牧師の任を解き、大阪聖愛教会牧師(定住)、大阪聖三一教会牧師、博愛社チャプレンに任命する。
司祭 ヨシユア原田光雄	2012年4月1日付	大阪聖三一教会牧師の任を解き、大阪城南キリスト教会牧師(定住)、聖ガブリエル教会牧師に任命する。
司祭 アンデレ磯 晴久	2012年4月1日付	高槻聖マリヤ教会管理牧師の任を解き、東豊中聖ミカエル教会管理牧師、庄内キリスト教会管理牧師に任命する。
聖職候補生 ヤコブ義平雅夫	2012年4月1日付	司祭アンデレ磯晴久のもと、東豊中聖ミカエル教会勤務を命じ、聖ミカエル保育園園長に任命する。
主教 サムエル大西 修	2012年4月1日付	高槻聖マリヤ教会管理牧師、富田林聖アグネス教会管理牧師任命する。
九州		
執事 ミカエル李 相寅	2012年1月1日付	主教座聖堂付とし、日本語研修・牧会研修を命じる。期間は1年間とする。
司祭 ダビデ中島省三	2012年3月31日付	大口聖公会副牧師の任を解く。
司祭 ヨハネ李 浩平	2012年4月1日付	大口聖公会牧師に任命する。
司祭 ヨハネ李 浩平	2012年3月31日付	大口聖公会管理牧師の任を解く。
司祭 ヨハネ李 浩平	2012年1月18日付	執事ミカエル李相寅の指導司祭とする。
沖縄		
司祭 ベネディクト高 英敦	2012年4月1日付	豊見城聖マルコ教会牧師を命ずる。



■ 正義と平和委員会から ⑫ ----

憲法プロジェクト

2011.12.25発行の憲法プロジェクト・ニュースレター「平和を実現する人々は幸い」を読んでもう一度だけ読んでいただけたでしょうか。沖縄の問題、憲法改正の動き、自衛隊問題、「君が代」強制問題も取り上げています。これらの問題を憲法プロジェクトでは、憲法、政治の問題として捉えるだけでなく、神様から与えられた大切な「命」の問題として考えています。そして、そこから憲法25条生存権の問題、貧困、ホームレスの問題にも関心を寄せています。

私は、広島復活教会の牧師として、2005年から広島平和礼拝の責任者をしています。2006年からは、カトリック広島司教区の方々と8月5日の夕方、合同プログラムもスタートしています。その交わりから「野宿労働者の人権を守る広島夜回りの会」へ導かれ、復活教会の有志と共にその活動に参加しています。この活動は、毎週水曜日の夜、冬はおむすびと温かい味噌汁、春から秋(月2~3回)はゆで卵とバナナを持ってホームレスの人たちの所に行き、話を聞いたり、相談にのる働きです。しかし、どうも与える側ともらう側の壁のようなものを感じていました。2009年の管区主催大韓聖公会の地域宣教活動の見学に行きましたが、「タシソギ(再起)・センター」での給食活

動に参加して、そのあまりのおいしさに驚かされました。

その学びが、復活教会の東隣にあります上臈町公園でのホームレスの人たちへの炊き出し(カレーライス)につながりました。この働きは、平和礼拝を一緒にしている、またフランスのルルドや長崎の五島列島へ一緒に巡礼に行ったカトリックの皆さんとの協働活動です。食事に来られる方々が、立って食事をするのではなく、テーブル、椅子に座ってゆっくり食事をしていただきます。最近参加者が少し減って、ホームレスの方々約50人、ボランティア約20人というところですが、2か月に1回ですが、始めて2年が過ぎました。

少し前、とても寒い水曜日でした。夜回りに行っていますと階段の下で寝袋に入って寝ている方がおられました。「夜回りです。おむすびと温かい味噌汁はどうですか」と声をかけますと、真っ暗でその方の顔も分からないのですが、「いつもおいしいカレーを食べさせてくれる牧師さんでしょう!」と声をかけてくださいました。「こんなことしかできなくて申し訳ありません」と答えました。ここからすべてが始まっていきます。

こうした活動の情報交換の場にも憲法プロジェクトのニュースレターが役に立てばと考えています。

日本聖公会正義と平和委員会

憲法プロジェクト担当 司祭 小林尚明

日本聖公会正義と平和委員会主催

2012年度沖縄週間 / 沖縄の旅

主題 命どう宝〜わたしたちが頼るべきもの〜

テーマ聖句 “キリストに結ばれて歩みなさい”

(コロサイの信徒への手紙 2:6)

日程: 6月22日(金)~24日(月)

● ● ● ●

主な内容についてご紹介させていただきます。まだ準備の段階ですが、第1日目・22日(金)は、集

合の後、那覇空港と嘉手納基地見学、そして夜には講演会を開催します。講師として高嶋伸欣さん(琉球大学教育学部教授)と交渉中です。竹富島の教科書採択問題や坂本龍馬ブーム、維新の会の動きなど、日本は今どこに向かっているのかをマクロの視点から基調講演をして頂く予定です。第2日目・23日(土)は、平和行進がメインのプログラムです。沖縄戦で犠牲となった方々のことを憶え、要所要所で証言を聴き、祈りながら、わたしたちはどこへ向かわなければ

ならないかという問いかけを持ちながら歩く予定です。「東日本大震災被災者支援“いっしょに歩こう！プロジェクト”」にも連帯する平和行進となるでしょう。第3日目・24日(日)は、午後沖縄教区慰霊の日礼拝に参加します。説教者には東北教区越山健蔵司祭をお呼びする予定です。以上が

主となるプログラムです。近日中に詳細をお伝え致します。皆様のご参加を心からお待ち申し上げます。特に初めての方の積極的な参加が期待されています。

日本聖公会正義と平和委員会

沖縄プロジェクト 司祭アンデレ磯 晴久

東日本大震災支援

「いっしょに歩こう！プロジェクト」 仙台オフィスから ⑧

—被災地域の格差と分断—

特命担当主事 司祭 パウロ 中村 淳

仙台は今週から日差しに「春」の気配が感じられるようになりました。初めての東北の冬、思った以上に厳しいものがあることを実感いたしました。被災された方々にとっても「春」は待ち遠しいものであるように感じられます。この冬は被災された多くの方々に「疲れ」が感じられました。様々な課題が浮き上がってきています。仕事のこと、学校のこと、コミュニティづくりのこと、何よりももうすぐ1年を経ようとしているのに、いまだに行方不明のままのご家族を抱えた方々のことは心が痛くなるばかりです。1年を機会にご葬儀を執り行うというお話を伺ったりします。それぞれがなんとか歩もうとしておられるお一人おひとりに神さまの慰めと励ましを祈らずにはおられません。

今回はプロジェクトの活動の中から垣間見える、現在の被災地の状況を少しご報告したいと思います。わたし達が活動し、多くの方々とお話をさせていただく中で感じることは、被災地域の間で「格差」と「分断」が起こっている、ということです。たとえば仙台市中心部は地震によって多くの被害を受けましたが津波は到達していません。仙台中心部ではその痕跡は多くの工事中の建物のみといてもよいかもしれません。南のほうの沿岸部では田んぼの除塩作業も始まっています。しかし、沿岸部を北へ行けば壊れた建

物の撤去もままならない、という状況が存在します。もちろん早く物事が動いているからと言って困難な状態が異なっているわけではないと思います。しかし、「復興」が早く進んでいる地域とゆっくりな地域の間で互いを理解することが難しくなっているかもしれません。そして、この状況は「同じ」地域間でも起こっています。たとえば漁業者の皆さんの間での意見の対立です。船を流されてしまった方々と幸いにも船が残った方々の間で、またどのように漁を再開するか、という問題で、意見の相違が見られ、その相違が解決されることなく時間が経ってしまっている、という状態が見られます。同じコミュニティの中で「分断」が起こっています。このような状況がプログラムの推進に細心の注意を払う必要へとつながっています。もちろん、すべてが「平等・公平」に進めることなどできません。しかし、支援プログラムの在り方が格差や分断を助長することにもつながりかねない状況がある、ということは肝に銘じなければなりません。

わたし達はこのことを少しでも回避しようと、支援者間の横のつながりを大切にしています。多くの活動地で支援団体のミーティングが持たれています。それぞれの活動先の情報を交換し共有し、コミュニティの再建を妨げることのないように方向を修正しています。どうかわたし達支援者が、神さまのみ心にかなう働きができますように、お祈りください。



ホームページ <http://nssk.org/walk/>

第1回 U26 集会の報告

U26 代表 北海道教区深川聖三一教会 マカリオス・ロダ 高木 泉

2011年発足の青年の集い「U26 (ゆーじろー・26歳以下の青年の集い)」の初イベント「第1回 U26 集会」を2月17日、18日に千葉県市川少年自然の家にて開催致しました。北海道・東北・中部・東京・横浜・神戸・京都・九州・沖縄からの青年、北海道教区から青年担当吉野執事、横浜教区から青年担当小林司祭・松井司祭・チャブレンを引き受けてくださった武藤司祭(管区宣教主事)の、合わせて36名での集いとなりました。

初めて全国的な集まりに参加したという“ゆーじろー達”が多く、最初は皆緊張した面持ちでしたが、少しずつ時を共にするごとに、お互いを知り、言葉では表すことのできないことをお互いに分ち合うことができたと感じます。参加者それぞれが今後の目標や希望を見つけ、これからいかに実行していくか、という新しい段階に入っていくことと思

います。

今回の開催に当たり、特に主教様方、青年委員会の皆様、各教区青年担当者の皆様、参加者の教会の皆様、お越しくくださった聖職者の皆様など、本当に沢山の方々のお祈りとご支援、また神様の導きを頂きました。皆様のお祈りと神様のみ恵みに感謝すると共に、このU26の活動を通してそれぞれの教会・教区に貢献できる仲間作りを続けていきたいと考えております。今後とも未熟な私たちを見守りお支えくださいますようお願いいたします。



就寝前の祈り

第1回 U26 集会に参加して

神戸教区 呉信愛教会 トマス 山本風太

2月17日～18日に千葉県の市川少年自然の家で「第1回U26集会」が行われ、全国各地から36人の青年が集まり、分ち合いやすスポーツ大会などを通して交流を深めました。

私が会場に到着すると、すでに多くの青年が待機していました。久々に会う仲間もいましたが、参加者のほとんどが知らない人ばかりです。どんな人がいるのだろう、そんな気持ちでいっ

ぱいでした。

開会礼拝が終わり自己紹介。自己紹介は2人ペアになり相手のことをみんなに紹介するという形で行われました。個人的にはこの自己紹介の場の空気がすばらしく良かったからこそ、集会が終わるまでの1泊2日の間、参加者全員が良い雰囲気でも過ごせた最大のポイントではないかと思っています。自己紹介はどうしても堅苦しくなりがちですが、それを全く感じませんでした。ペアで話しているときも、みんな初対面のはずなのに何かかわらず会話が弾んでいました。まさにこれこそがU26のスローガンである、「知る・つながる・教会の絆」そのものではないかと思

ます。教会につながっていたからこそ出会えた人々、そして絆を深める。参加者の中には普段あまり教会に通えていない人も何人かいました。そういった人たちが今回参加してくれたことは本当にうれしかったです。

1日目の夜はグループに分かれて分かち合いを行いました。テーマは「教会に行く理由・行かない理由」でした。行く理由、行かない理由、どのグループからも様々な意見が出ましたが、一番大きな違いとしては、教会内での楽しみを見つけているかいないかでした。行かない人も決して教会が嫌いというわけではなく、話の合う同世代の青年がいないから行っても楽しくない、活動はしたいけれどひとりでは…などの意見でした。青年の数は各教区によって差はありますが、教区内で助け合うことが大切だと思います。まずは教会に行く！それが青年の役割かもしれません。

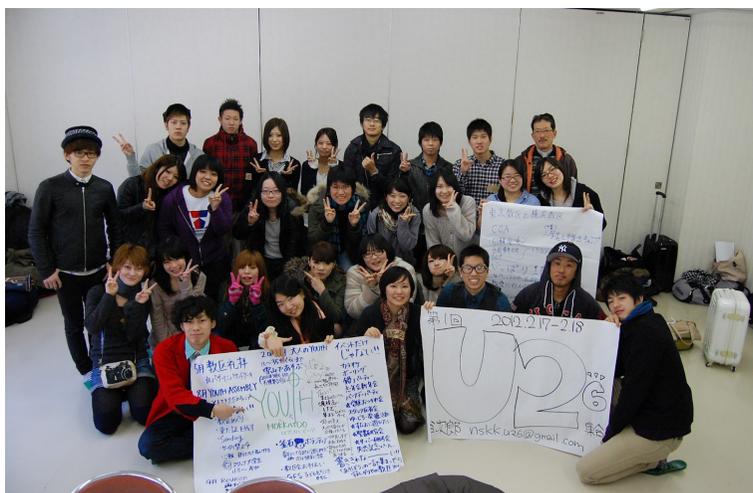
2日目には、教区ごとに分かれて、これまで行ってきた活動やこれからの目標についてプレゼン大会をしました。他の教区がどんな活動を行っているのかを聞く機会はなかなかないので、貴重な時間となりました。プレゼンの最

後には「誰かが行くから教会に行くのではなく、自分が行くから誰かが来る、という自覚を持ってほしい」と武藤司祭がおっしゃっていました。この言葉をしっかりと心に留めて、これからも教会のため、また、神様のために精いっぱい取り組んでいきたいと思います。



ミニスポーツ大会 開始の前に円陣を組んで

私は今回の「第1回U26集会」に参加して、ますます教会が好きになりました。教会が多くの人々によって支えられていることを改めて実感しました。夏には全国青年大会も行われます。今回来てくれたメンバーがまた来てくれること、そしてさらに青年の数が増えていることを祈っています。



米国聖公会総裁主教が ヒロシマと東日本大震災被災地を訪問

2012年2月13日～18日

米国聖公会総裁主教Katharine Jefferts Schori (キャサリン・ジェファーツ＝ショーリ)、Mr. Schori、Peter Ng (ピーター・ング/米国聖公会管区事務所アジア担当主事) の一行が、2月13日から2月18日にかけて、広島・仙台・東日本大震災被災地・清里を訪問視察した。この視察には日本聖公会から司祭 相澤管区総主事、司祭 笹森東京教区常置委員、八幡管区渉外主事が同行した。今回の訪問視察の概要を報告する。

□ 広島を訪問 (2月14日)

朝、大阪を新幹線で出発し広島へ。現地で神戸教区・中村主教とご夫人と合流。広島カトリック幟町教会世界平和記念聖堂を表敬訪問。主任司祭の案内で聖堂の見学。ラサール神父の設計思想に、禅の思想の基本・簡素である事を取り入れて日本人が設計した教会建築であることが強調された(完成は1954年)。その後、広島復活教会で婦人会のもてなしの昼食をとり、歓談(約20名が出席)。

広島平和記念公園では広島平和文化センターの理事長ステイブン・リーバー氏を訪問、慰霊碑で献花、広島平和記念資料館見学(約2時間半、英語による資料説明を受けた)。原爆投下



広島・平和記念公園にて献花

による悲惨な状況が、館内の展示と英語による詳細な説明を通して十分に理解されたことと思う。その後公園内の記念碑めぐりをした。夕方、空路で仙台へ移動。



広島平和記念資料館にて、説明を聴く総裁主教夫妻

□ 仙台地域の被災地を訪問 (2月15日～16日)

・気仙沼訪問

「いっしょに歩こう!プロジェクト」(以下プロジェクト)の中村司祭、長谷川司祭ほか数名と加藤東北教区主教が加わり、気仙沼の漁港近辺の被災状況を視察した。全てが失われて、今でも瓦礫の後片付けがままならない状況で、未だに復興が遅れている現状を説明者が強く訴えたことがジェファーツ＝ショーリ総裁主教の印象に残ったと思われる。場所によっては2メートル近い地盤沈下のために、本来はないと思われるところに海水が残っている状況や、町の基本的な復興計画が描かれていないために、個々人が復興に向けた行動を起こせない事情も理解されたと思う。

昼食後、プロジェクトが支援している、しょうがい者施設「ひまわり」のクッキー工場を視察し

た。新築のパン工場が家具や設備全てを含めて津波で流された事、以前使用していた新工場稼働後廃棄施設にすることとしていた旧施設を再度立ち上げて現在に至っている事、生産されたクッキーの一部をプロジェクトが定期的買い上げて支援している事、などを説明した。通所者は総裁主教の訪問を暖かく迎えて、訪問により気持ちがとても高ぶっていた様子だった。

・志津川を訪問

この拠点のさまざまな活動は佐々木アメリアさんが中心になって行われている。その一つが主にフィリピン人を対象とした、老人介護師資格取得プログラムである。この費用をプロジェクトが支援しており、現在6名の受講者が数ヵ月後に資格を取得出来る予定である。その後は志津川以外の地域での支援プログラムの展開を考えている。老人介護に関しては介護を提供する人の気持ちがとても大切に、単に職業として取り組むのではなく、介護対象者を家族のように扱う事が大切であり、フィリピン人はもともとこの気持ちを強く持っているの老人介護に適しているというアメリアさんの説明に、一同は感銘を受けた。



志津川の佐々木アメリアさんと

・志津川の被災地で

総裁主教は特に漁港近辺の被害の大きさを目の当たりにして言葉もなかった。一時避難所として機能していた高台にあるベイサイドアリーナを視察し、テレビで幾度となく放映された町役

場防災本部ビルの写真などを見た。また、波にさらわれるまで緊急避難放送をし続けて殉職された女性職員についての話を耳を傾けた。

・新地町(磯山地区)を訪問

新地町では磯山聖ヨハネ教会管理牧師林司祭と信徒5名の出迎えを受けた。磯山聖ヨハネ教会設立の歴史と設立者のランソン執事の話聞いた。ある時期には町のほとんどの人がこの教会に関連していた事を聞いて、総裁主教はとても感銘を受けていた様子である。

仮設住宅居住者の好意で仮設住宅の中を案内してもらった。台所・トイレ・風呂場と2部屋のコンパクトな住宅であり、家族4人が生活できるぎりぎりの広さである。住人の一人は特に風呂場が狭くて十分にリラックス出来ないことをこぼしていた。その後町役場を表敬訪問。町の復興計画のなかに、歴史的にこの地域に根付いている磯山聖ヨハネ教会の復興を取り入れる事を真剣に検討しているようである。



磯山聖ヨハネ教会信徒の方たちとともに

・「いっしょに歩こう!プロジェクト」を激励

短時間ではあったが「いっしょに歩こう!プロジェクト」オフィスを訪問し、スタッフを激励した。総裁主教はこのオフィスに活気があり、プロジェクトが順調に進行している事を感じたよう

だった。

16日の夕方、新幹線で東京へ移動。

・日本聖公会主催の歓迎夕食会

出席者は日本聖公会側から植松首座主教、三鍋横浜教区主教、大畑東京教区主教夫妻、相澤管区総主事、笹森東京教区常置委員、西原司祭、八幡管区渉外主事の8名

□ 清里 KEEP 訪問 (2月17日)

雪の降る中でKEEP施設見学、宿泊。米国聖公会から派遣されて日本に滞在している青年派遣プログラムの2名(Ms. Katie Young, 中部教区派遣、Ms. Nicole Groome, アジア学院派遣)と横浜 Christ Churchへ派遣されている Rev. Leonard Evans 夫妻が招待されていた。

米国聖公会総裁主教、日本訪問の意義

今回の訪問団はアジア地域、すなわちフィリピン(フィリピン独立教会を含む)、日本、韓国、中国、香港、台湾(米国聖公会台湾教区)を訪問されているが、なかでも日本での滞在が比較的長いことから判断すると、日本訪問を重要視していると思われる。日本に関する情報は事前に出来るだけ提供したつもりであるが、Peter Ng氏によれば総裁主教自ら情報収集を積極的にして、十分に準備をされたようである。

総裁主教の強い要望があり、広島平和記念資料館の見学にはしっかりと時間を取った(約2時間半)。原爆被害の資料展示を目の当たりにして、原爆が人類にとって不必要である事を強調されていた。決してこの過ちを繰り返してはならない事を口にしておられた。

仙台を含む東北の被災地訪問は、大震災発生以来ずっと総裁主教が希望されていた事であり、ようやく実現した。被害の甚

大な事、多くの犠牲者が出た事、未だに不明者が多数である事等を知り、心の痛む訪問であった。被災者の説明にじっと耳を傾けて、理解を深め、被災者の気持ちを理解する努力をされていた。新地町では磯山聖ヨハネ教会の信徒の方の仮設住宅内を案内していただいた。信徒の方は地方自治体から仮設住宅の提供を受けたことに関しては感謝されてはいるが、今までの自宅と比較して居住空間があまりに狭く毎日の生活で息抜きが非常に困難である事を訴えて、総裁主教は充分にこのことは理解されたと思う。

磯山聖ヨハネ教会の設立の歴史について、ランソン女史の当初の献身的な奉仕による賜物であることを教会の一番の長老信徒が説明した。ランソン女史の出身教会あるいは教区を調査し、何らかの形で町及び教会の復興に協力することが総裁主教から提案された。帰国後米国聖公会としてこの調査をしていただくことになった。

今回の米国聖公会総裁主教の日本訪問により、日本及び日本聖公会への理解がより深まったことを信じたい。

(管区事務所渉外主事・八幡眞也)

気仙沼「ひまわり」の人たちと

